

栃木県庁働き方改革プロジェクト2024

令和6(2024)年3月26日
行政改革ICT推進課

少子化による労働力人口の減少、人材獲得競争の激化、段階的な定年引上げ、行政ニーズの多様化などを受け、これまで栃木県職員が当たり前と思ってきた「県庁の仕事のやり方」も大きく変えていくことが求められています。

職員にとって魅力的な職場であり続けることを目指し、また、県庁全体の労働生産性を高めることで県民サービスのより一層の向上を図るため、次の3つの視点に基づく取組を組み合わせ「栃木県庁働き方改革プロジェクト2024」を全庁的に推進します。

1 タイムマネジメントの視点

時間は限られた資源という意識を徹底し、職員がお互いに「相手の時間」に配慮した働き方を実践します。

- ・ 庁内の打合せや他課への問合せ等は原則**17時までに終了**
- ・ 職員間のやりとりは、積極的に**チャット**機能を活用
- ・ **会議等の見直し**
 - **あり方の検討**（開催の有無、出席者の範囲や随行者等）
 - **効果的な実施**（資料の事前共有、最小限の時間設定等）

2 県民サービス向上の視点

組織的な業務の見直しやICTツールの活用により生み出した時間を、企画立案に充てることで県民サービスの向上を図ります。

- ・ **BPRの実践**による自律的な業務効率化の促進
- ・ 行政手続の**電子申請・電子収納**の促進
- ・ 生成AIやノーコードツールなど効率的な業務実施につながる**ICTツールの利用拡大**

3 意識変革の視点

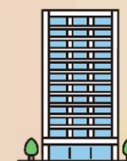
従来の仕事のやり方にとらわれることなく、職員一人ひとりが改革マインドを持ちながら、職務を遂行する機運を県庁全体で醸成します。

- ・ **職員からの施策や業務改善に係る積極的な提案の促進及び好事例の全庁展開**
- ・ ICTツールの積極的な活用やペーパーレス化（FAXの利用縮減等）など**デジタルファーストの徹底**
- ・ オンライン学習や体験型研修等による**デジタル人材の育成**

【スローガン】

いい仕事をして、定時退庁を基本とする働き方を文化に！

～限られた時間の中で業務の付加価値を高め、県民サービスのさらなる向上へ～



「いい仕事」とは、労働生産性（＝業務で生まれる付加価値÷労働時間）が高い仕事のことです。